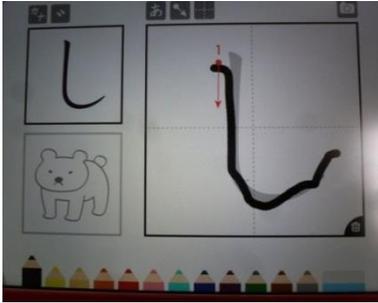


◆ひらがなの書き方を覚えよう

1 対象児童生徒（対象学級）の実態 <ul style="list-style-type: none">・小学部 肢体不自由・知的障害・日常生活の中でもスマートフォン等をさわって遊ぶことがある。・日常生活における指示はほぼ理解できる。・注視を促せば、絵や形のマッチングができる。・かくことは好きで、なぐり描きができる。
2 指導目標 <ul style="list-style-type: none">・iPadの操作に慣れる。・ひらがなに興味をもつ。
3 取組の中心となる教科・領域等 <ul style="list-style-type: none">・国語科
4 使用したアプリ、周辺機器 <ul style="list-style-type: none">・かなもじ
5 指導の経過及び児童生徒の変容 <ul style="list-style-type: none">・指導期間 4月～週1回「国語」の学習の終末の活動として取り入れる。 ・「かなもじ」はiPadの操作に慣れるまでは教師と一緒に言葉遊びを楽しんだ。操作に慣れてからは、好きな文字を自分で選ぶことば遊びを楽しむ姿が見られるようになった。また、ひらがなの文字の上にぐるぐるとなぐりがきをした後消しゴムで消す活動が気に入り、何度も繰り返し取り組む姿が見られた。1学期末から学習の中で、ひらがなのマッチングができるようになってきた。2学期半ばから簡単な文字なぞりができるようになってきた。3学期には、自分の名前、わかりやすい教師の名前を選ぶことができるようになってきた。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">指を使ってのひらがななぞり</div><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">課題プリント</div></div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"></div>
6 指導のポイント（変容の要因、効果的な支援方法等） <ul style="list-style-type: none">・iPad上には様々なアプリが示されているため、選択肢が多く、興味・関心が広がりがちであった。そのため意図した学習が難しくなる場合も多かった。本児の国語の学習では、集中力の時間も考慮し、短時間で教材を入れ替え提示してきた。なぞりかきの学習では、iPadに合わせて、ホワイトボードに作った道をミニカーでなぞる活動を行うことで効果も上がっていったと思われる。学習の終末に楽しみにしているiPadの学習を取り入れることで、他の苦手な活動にも進んで取り組み、さらなる伸びがみられたように感じる。他の学習と組み合わせながら取り入れていくことも効果的な活用方法であると思う。